

負けるな！腐るな！バレンタイン！・・・やったぜ！バレンタイン！

念のため、ボクは、子供の頃はともかく、野球には基本的に興味はない。だから TV を観ていてもニュース番組のなかのスポーツコーナーを「見る」程度で、タイガースがどうのこうのでハラハラドキドキするわけでもなんでもない。

今年プロ野球界で、**快拳**が生まれた。もしくは生まれそうである。

ひとり目は**イチロー**である。日米通算ながら、4000 本安打を記録した。野球選手にとっては考えたこともないような夢の記録であり、日本記録は張本勲の 3085 安打である。日本では 2000 本安打で騒いでいる。さすがに大リーグには、3000 本から 3499 本まで 23 人、3500 から 3999 本は 3 人。4000 本を超えたのはタイ・カップとピート・ローズの 2 人だけである。球聖タイ・カップのライバルであったジョージ・シスラーの忘れられていたシーズン最多安打は、大リーグ 4 年目のイチローが凌駕した。シスラーのお嬢さんと握手した。球場はスタンディング・オベーションであった。「イチローの記録はイチローにしか破れない」、と米国でも賞賛された。そこには、野球があるのみで、米国人も日本人も外国人もない。米国と日本と双方で野球殿堂入りは確実である。これにピート・ローズが例によってイチャモンをつける。イチローは内野安打が多すぎる。4000 本のときは、日本での記録は認められない。なぜなら野球 (ベースボール) のレベルが低いから。もったもである。ただし、イチローの名誉のために書くのだが、日本にいたときの安打数を打った試合数よりも大リーグでの同じ安打数の試合数の方が少ない。また、日本から一流といわれた選手が何人も行ったけれどもみな「並以下」で、すごすごと帰ってきたではないか。ローズの言い分にも一理ある。

なぜピート・ローズは口をだしてくるのか？理由は簡単である。監督のときに野球賭博に手を染め、八百長試合をしてきたから、野球殿堂にははいれないからである。ようやくタイ・カップの記録を破ったのに、・・・という意味である。もし、日米通算を認めれば、2 年もすれば自分の記録も破られる。それで妬み嫉みでガタガタ言う。人格・品性下劣である。

イチローは国民栄誉賞を 2 回断ったそうだが、この賞に恥じない。先日もらった某には、反対意見だらけだったが、イチローについては全員納得する。・・・マイナー・リーグで

の記録を足せば、4000本以上打っている選手が何人かいるらしいが、これは認められないだろう。一軍での記録で話を進めている。

ふたり目は、マー君、**田中将大**投手である。記録は20連勝である。松田はこれ以外それほどの活躍をした記録はないが、稲尾は違う。神様・仏様・稲尾様である。巨人との日本シリーズで、7試合中5試合に登板した、うち4回は先発である。ファンが土下座して伏し拝んだところからこう呼ばれる。西鉄ライオンズの監督であった三原脩が臨終の席で「酷使してすまなかった」とつぶやいたというが、現今の投手のように中4日、5日ではない。ほぼ毎日である。通算276勝している。シーズン42勝の記録も持っている。

この稲尾のもつ連勝記録を破ったのだから、たんに個人の力だけではないにしても立派なものである。チームでも個人でも1年間、好調を持続することはできない。調子が悪い時は悪いなりに、投げる。そういうときには味方が大量点をとって援護してくれる。それでも個人の力がもっとも大切なのは、言うまでもない。まして、今年は馬鹿なコミッショナーが勝手によく跳ぶボールに変更していて、シーズン途中でそれが判明した。そのなかでの記録だから、なおさら快挙である。かつて村山実投手がシーズンを通じて防御率が1点未満だったが、それでも敗戦投手になっている。連勝記録は破れなかった。つまりは、50年にひとりの選手、ということになる。(個人的な好みでは、それほどの選手とは思わないが)

先日、チャンネルを動かしているとき、バントの場面があり、ふと思い出したのであるが、稲尾も長嶋も全盛期のころ、稲尾がバントの構えをしたので長嶋が投球と同時に猛ダッシュした。すると稲尾が思い切りバットを振り、空振りだったのだが、これほどの勢いでバットを振られたら長嶋ももう猛ダッシュはできない。

9月、この田中選手は負けることなく、25連勝まで記録を伸ばした。すると、「世界記録だ」と騒ぐ馬鹿がでてくる。王のホームラン数の記録のところでも言ったが、土俵が違うのだから、比較することが無意味であることには変わりがない。「日本記録」で、「大リーグの記録も超えた」なら話がわかる。世界一かどうか、サ切尔・ページの記録はどうだったのか？ 他国での記録はどうだったのか？ 日本でだけ通用する話はもういい加減にするべきだ。

3人目はヤクルト・スワローズのバレンティンである。8月30日現在、102試合で52本のホームランを打っている。実に2試合に1本のホームランペースである。TVでもどの媒体でも王選手のもつ日本記録55本をいつ破るか、と騒ぐ。過去、バース、ローズ、カブレラが王の記録を破るところまでいったが、四球ばかりで、セリーグもパリーグも投手は逃げ回って、勝負しなかった。要するに、日本でだけ「世界の」と言われている王の記録を破られたくないだけのこと。王はどこかの監督で、そういう指示（つまり自分の記録を破られるな！）はしていない、と言ったが、それは事実だろう。投手が勝手に王の気持ちを忖度して敬遠まがいの投球に終始した。それでも王は、勝負しろ、と言うべきだった、と思う。

バレンティンにもすでに同じような現象があらわれている。まともに勝負しないのである。あと30試合もあるのに、今から逃げ回っている。DeNAの投手など、頭上はるかなところに投げる。高校生でももっとまじなボールを投げる。プロ以前の問題で、じつに恥ずかしいことだ。

入団翌年の長嶋茂雄に対しても敬遠ばかりで、業を煮やした長嶋は、バットをもたずに打席にはいったが、それでもすべて敬遠四球だった。戦術的にここは敬遠は仕方がない、という場面ならともかく、みっともないかぎりである。

阪急ブレーブスにダリル・スペンサーという大リーグ出身の選手がいた。「野球博士」と呼ばれるほど野球に詳しく、レベルも高かった。大リーグに入団したときから将来を嘱望された逸材で、よくまあ、日本に来てくれたものだ。阪神のバースや阪急のブーマーの方が記録としてははるかに上であるが、日本の野球のレベルを上げるのに貢献したのは、スペンサーである。このスペンサーが好調で、手に負えないくらい打っていたときのこと、通算320勝もした小山が敬遠まがいの四球ばかりで、ストライクを投げなかった。スペンサーは、バットをひっくりかえして持って打席にはいったことが何回かある。小山は、「打たれたくないから」と言った。すると、評論家の、現役時代は二流の投手だった藤田が、「打たれるのがいやだから勝負しないというのは恥ずかしいことだ」と正論を言った。のちに巨人の監督になって、優勝した。いいバッターに如何に打たれないようにするかを工夫するのがプロのピッチャーである。王の記録なんかもうどうでもいいじゃないか。55本打ったのは、1964年、つまり東京オリンピックの年である。50年も前のことで、今まで破られなかったこと自体、異常である。

イチローが大リーグの安打数の記録を作ったとき、逃げ回った大リーグの投手はいなか

ったように思うが、全打席を見たわけではないから確としたことは言えないが、たしかに勝負を避けた投手はいただろうが、いたとしてもわずかだっただろう、と思いたい。現に記録を作ったのだから。

バレンティンは、あと 30 試合もあって、その間にもしホームランが 3 本とか 5 本くらいなら、それこそ島国根性の最たるもので、ピート・ローズのいう、「日本の野球は認められない」に抵抗できなくなる。ホームランのペースも飛びぬけて早いバレンティンには、60 本でも 70 本でも打ってほしいものだ。……NHK の解説者なんかでも、敬遠については仕方がないとしか言わない。これもまた、別の意味で、恥ずかしいことだ。……長嶋茂雄が語るように観客に喜ばれてこそその「プロ」である。第一、観客に対して失礼じゃないか！

お客さんはバレンティンのホームランを観にきている。こんな大事なときのためにコミッショナーがいるんじゃないか！ いかにも無能でも何かすることがあるだろう。たとえば、ストライクのない四球には、4 回あればヤクルトに 1 点加えるとか。

今一番心配しているのが、レベルの低い投手が破れかぶれで、バレンティンにデッドボールを投げて、あとの出場ができなくしてしまうことである。近鉄だったかヤクルトだったかマニエルがそうだった。そういう投手は、解雇にせえ。そんな卑劣な選手はいらない。

かつて、イチローの安打対策に上田監督は、どうせ出塁されるなら、と投手に死球を命令した。西武の広岡は、近鉄の、今顔はでてくるが名前がでてこないのだが、強打者に対し、死球を命じた。他の近鉄選手が「当て得じゃないか！」と怒っていた。

東尾はバッターに死球をあたえることで勝利を稼いだ。あるとき、あまりのことに乱闘になった。このとき、東尾が「ほざいた」ひとことが「オレの生活はどうなる！」……馬鹿なことを言う。死球禍で選手生命を絶たれた名選手はいくらでもいる。だから、ボクは、今、解説でもバラエティ番組でもこいつがでてきたら即座にチャンネルを変える。こんな卑怯なヤツがいることが不愉快である。

だから、イチローが大リーグを選択したのは賢明だったと思っている。

2013.08.31.

実は、この稿は、8 月末に掲載するつもりであったし、もう出来上がっていた。バレンティン狂騒曲で遅らせた。せめて彼が記録をつくるまで待とうと思った。

56 号については、日本のだらしない投手のせいで表には現れていないが、ローズでもカ

ブレラでも、すでに事実上到達していた。だから、少なくとも 57 号か 58 号かを打たなければならない。

・・・ところが、このバレンティン、いつも飄々としてイライラしているようには見えないのである。どちらかといえば、それも楽しんでいるような雰囲気を醸し出している。ある意味、ノー天気というか楽天的な表情をしている。大記録を作る予感がする。

2013.09.10

9月10日、広島のエース前田から 54 号を放ち、次の打席では勝負を避けられた。すると、観客からブーイングが起こったのである。もはや 50 年も前の王の記録などどうでもいいし（別に王選手が嫌いなわけではない）、残る試合数は 20 試合以上ある。まさかに全打席敬遠というわけにもいかないだろう。

9月11日、55 号ホームランを放った。そしたら、次に出てきた投手、ストライクを投げることができない。情けないヤッチャ。あと 22 試合だ。

9月12日、56 号を待つファンは、ホームランボールを手に入れようと、外野席から埋まる。いつまでも王の記録ではないのだ、と日本中のファンが思っている。

もうひとつの狙いがある。大リーグのマクグアイヤーの 70 号のホームランボールには 3 億円の値がついた。あわよくば、その 1/10 にでもなれば、との思いもあるらしい。転んでもただでは起きない、現金なものだ。

9月13日、14日にはやはり外野席から埋まる。今、外野フライで数万の観衆を沸かせ、総立ちにすることができるのはバレンティンのみである。鶴岡監督の言う「ゼニのとれる選手」である。近年、これほどスポーツニュースをワクワクしてみていたことがあっただろうか。

そして、9月15日の日曜日、満員の観客の前で、56 号、57 号を立て続けに打った。逃げなかった阪神の投手陣も、そのファンも惜しみなく拍手を送った。逃げようとする投手にブーイングが起こった。彼らをちょっと見直した。